



## 多久の歴史

# 前多久家の滅亡

### 鎌倉幕府滅亡と南北朝

蒙古の襲来を防ぐために鎌倉幕府は膨大な資金を使ったうえ、家人への論功行賞の下手際から信用を失い★①内訌(内輪揉め)が絶えず幕府の屋台骨が揺らぎ始めていました。

後醍醐天皇が位につかれると、幕府を倒し朝廷の政治に帰そうと★②「正中の変(1324年)」「元弘の変(1331年)」を計画しますが失敗、この事件を切っ掛けに幕府の弱体化を露呈させ内部抗争を誘発し「楠木正成」「新田義貞」「足利尊氏」等が天皇に味方することで元弘3年(1333年)源頼朝が鎌倉幕府を開いてから141年目に滅亡しました。

その後、天皇親政の建武の新政権を行います。足利高氏の野心から再び国が乱れ、★③南朝と北朝に分かれ50余年に渡り争いました。



▲後醍醐天皇

★① 正中・元弘の変… 後醍醐天皇が中心となった討幕計画

正中の変…………… 反幕の武士の協力での計画・密告により失敗

元弘の変…………… 寺社の武力を頼っての計画・密告により失敗

★② 南北朝時代…………… 鎌倉時代と室町時代の間にあたるが広義的に室町時代にあたる南朝(後醍醐天皇)VS北朝(光明天皇・足利尊氏)

### 南北朝時代(室町時代)

南北朝の頃、九州では南朝(天皇方)と北朝(足利方)に分かれました。南朝側には菊池・阿蘇・肝附・伊藤家などで、北朝側には少弐・大友・島津家などが味方し争いました。

建武3年(1336年)には、北朝方の菊池家・阿蘇家はそれぞれに兵をおこし、北朝方には少弐家・大友家が迎え撃った、菊池・阿蘇の軍は太宰府を陥したが、多々良浜の戦で大敗し菊池家は筑後へ退却、阿蘇家は天山を超えて肥後へ帰ろうとしたが小城の千葉家に遮られ晴田において敵味方入り乱れる山岳戦をおこないほぼ壊滅しました。

この時、多久宗晴は少弐家に従い戦功を称された「建武三年属將軍方従少弐頼尚於所々戦功」

### 前多久家の滅亡

戦国時代末期、肥前の国において龍造寺隆信の勢力が強大するのをみた大友義鎮は、少弐一族の政興をもって少弐氏を再興させ、これに有馬氏、大村氏、松浦党諸氏に働きかけて対抗した。西方から佐賀攻めを行うには、多久が重要な位置にあり、多久宗利にも加担を呼びかけ永禄五年、佐賀攻めが開始され、龍造寺隆信は杵島において有馬勢の進出を阻止し、松浦党の結束を崩すなどして防戦につとめた。

さらに多久をめぐる攻防が行われ、多久宗利は丹坂口に出陣したところ、宗利の留守を衝いた龍造寺軍の攻撃によって、宗利は**多久梶峰城**に帰ることができなくなり、須古の平井氏を頼って落ち、鎌倉以来の本拠である多久を失いました。宗直に始まり342年続いた前多久氏は、天文13年(1544年) 邑主として滅亡しました。

元亀元年(1570)、龍造寺隆信の弟長信が梶峰城に入城し、多久を支配するようになった。これを後多久氏と呼び区別しています。



西溪公園から望む梶峰山(梶峰城)▲

UDFONT

易やすぐて読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



環境に優しい植物油  
インキを使用しています。

議会広報委員会	
委員長	榊島 永二郎
副委員長	鷲崎 義彦
委員	田淵 厚
	小川 香月
	三郎 正則
	平岡 智治

